

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	24226002	研究期間	平成 24 年度～平成 28 年度
研究課題名	酸化物二次元界面の量子機能とデバイス応用	研究代表者 (所属・職) (平成27年3月現在)	川崎 雅司（東京大学・大学院工学系研究科・教授）

【平成 27 年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

酸化物エレクトロニクス分野でも挑戦的な課題を選び、取り組んでいる研究であり、基盤研究（S）としてふさわしい国際水準の研究成果が得られている。また、今後の研究計画、経費の使途も妥当である。当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる。ただし、研究目的としている、電気2重層型トランジスタの具体的な応用に関する詰めなどが、まだ十分とは言えないので、残された研究期間において、これらの点を明らかにすることが望まれる。